



# 新生美術館 立地・機能配置案の検討状況について

平成25年9月

滋賀県総合政策部「美の滋賀」発信推進室

# 1. 新生美術館の検討案

平成24年10月5日の政策・土木交通  
常任委員会で提示した資料より抜粋

## 新生美術館の意義

### 1. 「美の滋賀」の拠点となる

「美の滋賀」の入り口として、過去から同時代までの滋賀の美を発見し、県内の人や地域とつながりながら、守り、育て、受発信することを通して、人々の出会いやつながりの拠点となる

### 2. 人の育ちと共生社会の実現に貢献する

県民や利用者に多様な美の魅力や価値観との出会いの機会を提供し、創造的な人の育ちや、共生社会の実現に貢献する。特に、これからの時代を担う子どもたちの感性を育む

### 3. まちづくりや観光・産業などと連携して、活力ある地域社会を実現する

美の持つ可能性を広げ、まちづくり、観光、産業など幅広い分野への波及効果を生み出し、活力ある地域社会の実現をはかる

## 新生美術館がめざす姿

### 1. 創造との出会いの場

滋賀ならではの美をはじめ、県外および世界の創作や美を巡る動きも幅広い視野で受け止め、魅力的なかたちで提供し、県民や利用者と新たな創造との出会いの場となる。

美の魅力を提供する  
(展示・普及機能)

明日の人を育む  
(学習機能)

### 2. 多くの縁を結ぶにぎやかな広場

「美の滋賀」の広場として、美をきっかけに多くの人や地域をつなぐとともに、美術館の運営にも様々な人や団体が関わり、いつも人が集う場になる。

つなぐ・広げる  
(交流・連携機能)

新生美術館の機能

### 3. 頼られる存在

滋賀で生まれ育まれてきた美の資産を未来に確実に引き継ぐとともに、専門的な知識と幅広い経験に基づいた活動や情報を広く提供し、信頼される存在であり続ける。

集める・守る  
(作品収集・保管機能)

探究する  
(調査・研究機能)

## 運営

### <基本的な方針>

- ①美術館ならではの高い満足感を提供するため、県民や利用者の立場に立った運営を行う
- ②創造的で革新的な活動を展開するため、地域や社会とつながり双方向で連携をすすめる
- ③持続的な美術館活動を展開するため、常に経営感覚を持ち、効果的・効率的な運営を行う

# 2. 新生美術館立地・機能配置の案

## A案 (現在地での一体整備案)

○現在地 (びわこ文化公園) に新生美術館の全ての機能を整備する。

○全ての作品・機能を同一場所に集中させることで、「美の滋賀」の拠点になるという美術館のコンセプトを明確に実現。

美術館来館者目標数			
30万人			
想定整備・運営費用 (単位: 億円)			
	上位	中位	下位
※当初整備費	54.1	42.8	34.6
年間運営経費	5.5		
総経費 (30年)	219	208	200

※公園整備費等は含まず

### 新生美術館として整備後

(びわこ文化公園内)

**収蔵・コレクション展示**

- 近代日本画
- 現代美術
- 郷土ゆかりの美術
- 神と仏の美
- アール・ブリュット、若手等

**企画展示**

**具民ギャラリー**

**創作・交流・イベント**

**メディア**  
メディア・コミュニケーション

<想定延床面積>  
既存施設 8,544㎡ (改修)  
新棟 約 6,400㎡ (増棟)  
合計 約14,900㎡

## 現在

### 近代美術館

(びわこ文化公園内)

**収蔵・コレクション展示**

- 近代日本画
- 現代美術
- 郷土ゆかりの美術

**企画展示**

**具民ギャラリー**

**創作・交流・イベント**

**メディア**

<延床面積>  
既存施設 8,544㎡

両館の連携・利用者の流動確保

## B案 (まちなか分館整備案)

### 本館 (新生美術館として整備後)

(びわこ文化公園内)

**収蔵・コレクション展示**

- 近代日本画
- 現代美術
- 郷土ゆかりの美術
- 神と仏の美

**企画展示**

**具民ギャラリー**

**創作・交流・イベント**

**メディア**  
メディア・コミュニケーション

<想定延床面積>  
既存施設 8,544㎡ (改修)  
新棟 約 5,300㎡ (増棟)  
合計 約13,800㎡

### まちなか分館

**収蔵・コレクション展示**

- アール・ブリュット、若手等

**展示・創作・交流・イベント**

<想定延床面積>  
約1,500㎡以上

○現在地を本館として、立ち寄りやすい便利な場所に新生美術館の一部の機能を展開する分館を整備する。

○両館の連携により相乗効果で「美の滋賀」の拠点というコンセプトを実現。分館では特に活力ある地域社会への貢献に重点。

美術館来館者目標数					
本館	29万人	分館	3万人	合計	32万人
想定整備・運営費用 (単位: 億円)					
	上位	中位	下位		
※当初整備費	50.2	40.7	33.9		
年間運営経費	6.5				
総経費 (30年)	245	236	229		

※公園整備費等は含まず

### <まちなか分館の整備場所>

下記の条件に合致する、民間等が所有する既存施設を改修して入居することを想定。

- ①約1,500㎡以上の床面積が確保できること
- ②本館との距離が概ね10キロ以内(※)であること
- ③JR駅から徒歩圏内(公共交通アクセスが本館より良好)であること
- ④早急に整備に着手できること

※県議会の議論では、熱意のある地域であれば、10キロ以内にこだわらなくてもいいのではないかとの意見もある

### 3. 立地・機能配置の案に対する評価

#### 県政モニターヒアリング調査（平成25年7月）

- 米原・大津両会場で県政モニター41名を対象として、県民や利用者の立場でヒアリング調査を実施
- A案を支持する人が全体の約7割、B案支持の人が約3割であった
- 特に湖北・湖東など、近代美術館から距離のある地域のモニターからは、車でのアクセス性等の観点からA案を支持する声が多かった

#### 新生美術館基本計画検討懇話会（平成25年7～8月）

- 美術館運営・経営・文化・文化財等の関係分野の委員で構成される懇話会を2回開催
- 現在の美術館の場所に機能を集中させ、充実した事業の展開を求める意見が多数あった
- 一方でギャラリー機能等の充実の観点から、まちなか分館に期待する意見もあった

#### 検討案と現状に対する評価（主な意見）

A案に対する意見	B案に対する意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>○機能や人材を集中させることで、充実した事業展開が可能となり、県内外からの集客が期待できる</li> <li>○幅広い分野の作品が揃うことで、家族3世代など幅広い年代や、多くの利用者が認識や価値観を共有できる機会を提供できる</li> <li>○周囲の自然環境とセットで公園内に立地する美術館の魅力を打ち出すことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分館は電車利用の人や家族連れなどが気軽に立ち寄りやすい</li> <li>○分館は集客力や適切な立地場所が確保できるかといった面で懸念がある</li> <li>○実態として分館は本館とは独立した運営になり、管理・運営のコストが高む</li> <li>○多くの県民に美術館の機能を提供しようとする分館設置の狙いは、固定的な分館設置ではなく、出前型・出張型や地域との連携による事業を展開した方がより効果的</li> </ul>

#### 現在の近代美術館の立地環境に対する評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>○公園内の豊かな自然環境の中にあり、特に都市部からの利用者には魅力</li> <li>○県内外からの特に自動車を利用した広域アクセスには優れている</li> <li>○バス停や駐車場から歩行距離が長く、案内表示も不十分</li> <li>○多くの利用者が快適に楽しめる施設機能（レストラン・ショップ等）が貧弱</li> <li>○館の内外で美術館に来た高揚感や演出が感じられない</li> </ul>
---

## 4. 県政モニター・検討懇話会等からの基本計画全般に向けた意見

### ① 自然豊かな立地環境のポテンシャルを活かした施設整備

- ・びわこ文化公園全体を美術館とみなした、屋外空間の活用も含めた一体的な整備
- ・自然との調和や、琵琶湖・比叡山の眺望の確保
- ・利用者が夢や憧れを持てる魅力的な施設の実現

### ② 多くの県民が利用し、楽しむことのできる魅力やサービス機能の強化

- ・レストラン、ショップ、創作・参加体験など、利用者視点でプラスアルファの魅力づけとなるアメニティ機能の充実
- ・路線バスなど公共交通の充実や駐車場の増設、園路の演出などのアクセス性の向上
- ・子どもが本物のアートや自然を体験できる場を館の内外に用意
- ・県民や作家の創作活動の発表の場として、ギャラリー機能の充実
- ・障害のある人をはじめ、多くの人利用し、楽しみ、集まることのできるインクルーシブ(社会包摂) の概念の実現

### ③ 持続的に美術館機能を発揮できる体制の整備

- ・専門性や能力を備えた人(職員)の確保

### ④ 県内全域への美術館機能の展開

- ・地域と連携したアート・プロジェクトの展開や、出張・巡回による展示、ネット上での情報提供などの実施
- ・美の滋賀の発信基地としての将来的なサテライト機能の展開

# 5. 新生美術館整備プロセスの想定

		平成26年度	平成30～31年度ごろ
施設整備（建築）		建築基本設計・実施設計	新館建設工事 既存館(近代美術館)改修工事
美術 館 機 能 の 展 開 ・ 強	近代美術館での 展示	企画展・常設展等事業の実施	休 館
	出張展示	県内外での出張展示の実施	
	プログラム・展示内 容検討	新生美術館における教育や展示プログラムの検討・準備	
	オープン関連事業		開館記念企画展・プライベート等準備・実施
	作品収集	近代美術館における作品収集の検討・実施 県内作家、アール・ブリュット等の作品収集の検討・実施	
地域等との連携による事 業展開		県内各地域との連携事業の実施	
情報発信		県民に対し、新生美術館の周知と、期待感を醸成、参画の促進を目的とした広報活動やトーク等を実施	開館に向けて、来館につながる県内外への広報宣伝を実施
県民・団体等の参画		施設整備やプログラム・企画の検討など準備プロセスにおける県民・団体等の参画	
周立 辺地 環 境 と の 充 善 連 携	びわこ文化公園の 整備	改修の検討・実施	
	周辺施設・地域と の連携		周辺施設・地域との連携の検討・実施
	交通アクセスの改 善	案内表示、バス路線等交通アクセスの改善	
	びわこ文化公園都市将 来ビジョン実現	びわこ文化公園都市将来ビジョンの実現にむけた取り組み	
琵琶湖文化館 機能移転		琵琶湖文化館機能・収蔵品の移転に向けた検討・実施	
「美の滋賀」づくりの推進		「美の滋賀」づくりの取り組み（県内各地の美の資源を活かし、発信する取組の促進・支援・連携）	

新生美術館全面オープン

「美の滋賀」の拠点として、地域とつながりなが  
ら魅力を発信する美術館活動を展開